

高大連携通信

発行 兵庫県立神戸高等学校総合理学コース部

第6号 平成18年(2006年)6月15日(木)

「高大連携通信」作成に際して2003年から、フリーソフト OpenOffice.org を使って全て作成されています。(感謝)

「自然科学通論(高大連携)」の効用を探る!

君は何を目指すのか? 具体的な目的があってこそ頑張れる!

今年度の「高大連携講義」では、神戸高校主催の「講義」は順調に決定しているのですが、神戸大学主催の「講義」の詳細が未定なままです。これは、神戸大学での準備が昨年より1月ほど遅れているからです。6月下旬ごろには講義のタイトルなどが決まるようです。

連年どおりに神戸大学が連携講義を実施することは筆者が確認済みです。安心してください。講義内容など詳細については順次分かり次第、「高大連携通信」の紙上で紹介する予定です。

具体的な講義のタイトルや内容は不明でも、昨年とほぼ同様の形式(各学部、学科から選ばれた講義の組み合わせ)で行われる予定ですから、昨年度と形式はそれほど変わりがないでしょう。

「大学生よりまじめな高校生(真剣に授業を聞いてくれる生徒)」の感想も

高大連携講義を受講する生徒の評判は非常に高いのです。講師の大学の先生が「大学生よりまじめな高校生(真剣に授業を聞いてくれる生徒)」と毎回おっしゃいます。講師の先生は講義のやりがいを感じられるので、そのために講義内容を高校生により分かりやすいようにわざわざ作り直してくれるのです。

高校生向きに「パワーポイントのシート」を沢山準備し、高大連携講義が高校生にとって分かりやすい講義となるようにずいぶん時間をかけてくれているようです。

どの先生も講義後、筆者との雑談で「生徒の目が生きている!」との感想をもらわれます。真剣な受講生とそれに答えようとする先生の相互のよい循環が生まれて、生徒と先生が互いに講義を作り上げている「理想的な講義」ではないでしょうか。

「大学生の目が生きてない!」のは何故なのだろうか?

大学生の方が「目が生きてない」のは何故なのでしょう? 進級や卒業のためという低次元な目的で受講する学生が多いからではないでしょうか? それでは真の勉強は出来ません。心の中から外見にもその気持ちが滲み出てきます。「目が生きてない」のもそのためでしょう。

高校生の場合は自分から進んで受講していることがその理由でしょう。卒業するためでもなければ、進級するためでもありませんから、心が清らかなんですね。自分が勉強する目的を求めて純粋に参加している高大連携講義ですから当然です。だから、大学生に負けるわけがありません。

自分が目指す真の目的を持ってこそ学習意欲が高まるのです。とりあえず大学に進学して...などのあいまいなものでは、学習意欲の高まりは出来ません。「目が死んだ大学生」にしかたないのです。

何のために医学部に行くのが医師になるためでは足りません。何をするために医師になるのかが問題なのですね。工学部に行く、薬学部に行く、農学部に行く、...なども同様で、より深い目的を持ってこそ厳しい受験勉強を乗り切れるのではないのでしょうか。その目的を見つける場として「高大連携講義」があるのです。

「夢」ですべては始まるが、「夢」だけではそれは成就しない。

夢をかなえるための「絶え間ぬ努力」があればこそ、「夢」が「現実」になる!

小学生に聞きました...との話はよくマスコミにも登場します。「プロ野球選手」、「新幹線の運転士」など夢を語る小学生はかわいいものです。しかし、高校生がこのレベルでは笑われてしまうのです。夢や憧れのレベルに留まっている高校生も少なくないのも事実でしょう。それでは小学生と同じレベルなんですね。自分の姿を振り返って、よく考えて見ましょう。

高校生の場合、夢をかなえるために努力をしている姿がなければ、周りは認めてくれません。その目的をかなえるための道もある程度決まっています。夢をかなえる努力を取らず憧れだけでは、あなたの周りの人にとっても悲しくなります。

ロボット博士「古田先生」の対比写真(研究前、研究後)から何が分かる？

この話にぴったりの高大連携講義が、昨年度に実施した「2足歩行ロボット morph3」だったでしょう。古田先生の生い立ちのころから現在ロボット研究に没頭するに至る話がぴったりでしょう。

古田先生の講義の中で紹介されたのが、見出しの対比写真です。研究に没頭し始める前の写真ではふっくらとした姿が映っているのです。研究に没頭し始めると、寝る時間をもったいない、食事を取るのも忘れてしまうのだそうで、研究中の体重減少は著しく、ガリガリの体になりドクターストップとなり、研究が終わるのだそうです。研究前後の写真の対比は誰が見ても分かるほどの違い。ここまではしたくないとの気持ちになるのですが…。

夢が人生を決めるのです。夢をかなえるために古田先生が寝食を忘れるまでに没頭した話は感動的でした。総合理学コースの一部の生徒は昨年度の高大連携講義で見たはずです。

インターネットで調べてみても¹、古田先生の講義は全国各地で行われ大好評のようです。SSH指定校だけでも相当数の学校で講演されています。これでは、古田先生が千葉工業大学にいる時間があるのだろうかとか心配するほどです。全国の学校から引っ張りだこである古田先生が、今年も神戸高校に来校され、講義をしていただけるのです。

4号で紹介した「ロボ鉄」の本を読まれた人、いかがでしたか。表紙だけを見ると「オタク」の香りがするのですが、中身はすべて「ロボット」ばかりです。「ロボット・オタク」には間違いありませんが…。 (志)

インターネット講座 ～ 検索技術 ～

インターネットによる情報検索の技！

インターネットの良いところは最新の情報もすぐに検索にかかってくれることです。書籍などではそうは行きません。この高大連携などの情報も2、3日後には「Googleによる検索」に登録されているようですから、即時性にも優れるインターネットを利用しないという選択肢はありません。



図1 「グーグル」の特別ロゴ ～ ワールドカップ2006 ～

ネット情報検索の欠点とは？ ～ 絞り込み検索がすべての欠点を救う ～

インターネット検索での欠点はあまりにも情報が集まりすぎることです。情報の洪水に巻き込まれ必要な情報にたどり着けないことのほうが多いのです。それを制御する技が「キーワード」の選び方なんです。一般用語だけで検索をかけることは無意味です。絞り込みの1語をつける「技」なんです。

検索の使い方は「キーワード」の選び方

例えば、次のような情報を探している場合はどうでしょうか？ 神戸大学や神戸高校が行っている高大連携講義の情報を得ようとする場合、「高大連携」の一語では情報は絞り切れません。情報が多すぎるのです。「高大連携」に「神戸」をつけるだけでぴったりの情報にたどり着けるのです。神戸〇〇大学、神戸〇〇高校に関する高大連携情報が得られるのです。古田先生の連携講義なら「古田貴之」に「連携講義」になります。色々な高校に行っていることが分かりますね。

検索結果のページを何ページもみ続けるのは疲れます。最初の1ページ目にあるように検索キーワードを決めるのが一番です。インターネットのベテランはこの当たりの技の使い方がうまいのです。

特殊な語句をつけたばかりに必要な情報が外れてしまうこともあります。キーワードに追加する単語は何個あっても良いのですが、多すぎるとすべてを満たす情報がなくなってしまう。

1 「古田貴之」、「morph」、「ロボット」などの語句で検索してみればよい。